



「中部山岳国立公園の魅力」

松本自然環境事務所 有山義昭

中部山岳国立公園は昭和9年12月4日に指定され、総面積は174,323haであり、北は白馬岳から南は乗鞍岳に及び、英国人ガウランドが名付けた北アルプスの大部分を占めています。当公園内には日本百名山の15山があり、渓谷美と相まって山岳公園の代表にふさわしく、年間約1,000万人が訪れています。

当公園の代表的な利用拠点として上高地及び立山の室堂があり、当事務所としては公園を訪れる様々な方々に快適で安全に利用して頂くよう、ビジターセンター、公衆トイレ、誘導標識、案内板、歩道などを整備しています。

上高地では河童橋から眺める残雪の穂高連峰、梓川沿いの新緑のケショウヤナギなどの河辺林、澗沢に代表される紅葉が見られ、季節毎に移り変わる



河童橋と穂高連峰(上高地)

景観は枚挙にいとまがありません。

湿原景観は溶岩上のわずかな土壌に出現した数々の地塘を含む高層湿原の雲ノ平、五色ヶ原などが

あります。また、白馬岳周辺は高山植物の種類及び種数も多く、短い夏の間世代を残す高山植物の戦略、その美しさに魅了されます。さらに、双六岳の構造土を含む周氷河地形、薬師岳や槍ヶ岳に代表されるカールの観察など、地形・地質を切り口に自然を観察する楽しみもあります。



鷺羽池と槍ヶ岳(鷺羽岳)

昨今、国立公園の魅力が指定当時に比べ少なくなっていると聞いています。我々は国立公園を管理する立場として素晴らしい景観を保護することも重要ですが、国立公園のもたらす直接的、間接的の利益を再確認し、公園を訪れる方々に対し、今以上に魅力を持ってもらうような仕掛けを用意し、地域の方々と連携しながら情報を発信していきたいと考えています。

アルプスを世に広め近代登山の礎を築いたW・ウェストン、小島烏水などを魅了した当公園の景観を存分に味わって頂きたい、何度も足をお運びください。

FOCUS

開催しました!

3R推進中部地方大会

中部地方環境事務所では、10月の3R推進月間(※1)における普及・啓発活動の一環として、岐阜県と連携して3R推進中部地方大会を開催しました。

この大会では、10月2日(土)に、岐阜市内のショッピングセンターマーサ21において、3R推進マイスターの小林由紀子氏による3Rに関する講座・クイズなどやエコキャラによるステージイベントを行ったほか、展示ブースにおいて、岐阜県内で3Rに取り組んでいる6団体(※2)が活動内容の紹介・展示などを行いました。

また、翌3日(日)には、長良川球技メドウで開催されたJリーグ2部のFC岐阜対徳島ヴォルティスの試合とタイアップして、競技場への来場者に対し、リユースカップを配布するとともに、売店での継続的な使用を呼びかけました。なお、FC岐阜の主催試合では、今後も、売店でマイカップなどのリユースカップをご利用いただけます。

※1 3Rとは、循環型社会形成に向けた廃棄物などの排出抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle)の取り組みのこと。

※2 出展団体は、大垣市環境市民会議、岐阜県立恵那農業高等学校、グリーンライフ21・プロジェクト、NPO法人 仕事工房ポポロ、西濃環境NPOネットワーク、NPO法人 MYの6団体です。



実施しました!

COP10の広報活動

(ごみ拾い、普及啓発、ゴミ拾いレンジャーとのコラボ)

地球温暖化という言葉に比べて、生物多様性という言葉はまだ身近なものになっていないと言われています。そのため、中部地方環境事務所では、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)の開催に際して、「生物多様性」を社会に浸透させるため、COP10のロゴマークをプリントした「生物多様性ポロシャツ」を着用して、ごみ拾い活動などを実施しました(写真右上)。



ごみ拾い活動は、8月からスタートしてCOP10が開催される10月までの毎週火曜日の昼休みや業務時間終了後に実施しました。COP10開始直前の10月3日(日)には、名古屋を中心に活動しているNGOア∞スゴミ拾いレンジャーの方々の活動に参加させていただきました(写真左下)。また、9月29日(水)には、環境省のCOP10広報グッズを栄駅周辺で配布しました(写真右下)。

